

解 答	51. (D)	52. (A)	53. (C)	54. (D)	55. (C)
-----	---------	---------	---------	---------	---------

51. 「今日の気温は30度まで上がるので、バーベキュー用の肉と野菜をクーラーボックスに入れておかないと悪くなってしまわなかいか心配です」

【誤】(D)won't put→【正】put

▶ 下線部(D)直前にある接続詞unless(～でない限り)は否定の条件を表すので肯定文を続けます。条件を表す副詞節ですから、unless節内ではwillを使わず、未来のこととは現在形で表します。

【語句】

□ unless ~「～でない限り(=except that)/もし～でなければ(=if … not)」

*Unless something unexpected happens, we'll take the first train tomorrow.*  
(何か突然のことでも起きない限り、明日の始発列車に乘ります)

□ S is worried that節 「(人が)～のことで心配している」

*They were worried that the game might be put off.*

(試合が延期になるのではないかと彼らは気をもんでいた)

### 気温に関する表現

#### ■ 気温が上がる/下がる

*The temperature will rise to 30°C during the day.*

(日中の気温は30度まで上がるでしょう)

*The temperature suddenly dropped [fell] in the evening.*

(夕方になって急に気温が下がった)

#### ■ 気温が～度だ

*The temperature was (six degrees Celsius) below zero this morning.*

(今朝の気温は氷点下(摂氏6度)だった)

▶ 摂氏はCelsiusまたはcentigrade。6°Cはsix degrees centigrade[Celsius]と読みます。

52. 「トムがテーブルのところで話している少女は、彼の妹のジェーンに違いありません。彼女はとても変わってしまったので、最初彼女だとわからなかったのも無理はありません」

【誤】(A)is talking→【正】is talking with[to]

▶ Tom is talking at the tableは先行詞the girlを修飾する関係代名詞節です。目的格の関係代名詞なのでwhom(またはthat)が省略されています。「(～と)話す」という意味においてtalkは自動詞ですので、前置詞with(またはto)を補う必要があります。

【語句】

□ (it is) no wonder (that) ~「～なのは当たり前だ/～は少しも不思議ではない」

*No wonder he refused your offer.*

(彼が君の申し出を断ったのは当然だ)

□ recognize A 「A(人)が誰であるかわかる」

*I recognized Jim by his step.*

(足音でジムだとわかった)

53. 「タカシは電気料金が先月の倍近くであるのを知って驚きました。彼は理由を知るために電気会社へ電話をかけました」

【誤】(C)called to→【正】called

▶ 下線部(A)に関して「(人・場所・番号)に電話をかける」という意味において、callは他動詞なので前置詞toが不要です。

[例] Please **call me** at this number.

(この番号に電話をください)

- ▶ 下線部(B)に関して「**2倍**」はtwice、「**価格の高い(低い)**」は**high(low)**で表すので正しい表現です。下線部(D)に関して、tryは不定詞と動名詞の双方を目的語にとることができます。動名詞(try to do)の場合は「～しようと試みる、努力する」という意味で、動名詞(try doing)では「試しに理由を知るために」という意味になります。本問では不定詞のままのほうが、文意に合っています。

【語句】

□ **be shocked to do** 「～して驚く、腹を立てる」

We **are** deeply **shocked to** learn that our teacher was seriously ill.

(先生が重病だと知って私たちはひどくショックを受けた)

54. 「駅に近いという事実をとりわけ考慮すると、このアパートの家賃はお手頃だと思います」

【誤】 (D)close from → 【正】 close toまたはnear

- ▶ 「～に近い」という意味で形容詞closeを用いる場合の前置詞はfromではなくtoなのでclose toとするか、前置詞**near**(～の近くに)と置き換えます。

[例] My house is **near** [close to] the station.

(私の家は駅の近くです)

- ▶ 下線部(C)でconsideringは前置詞として用いられています。consideringには接続詞としての用法もあるので、覚えておきましょう。

〔前置詞〕 She managed the shop well, **considering** her lack of experience.

(彼女は経験の少ないわりにはうまくその店を経営しました)

〔接続詞〕 **Considering** (that) **she has no experience**, she did quite well.

(未経験にしては、彼女はかなりよくやりました)

55. A 「ジェーンは神戸から車で戻るのに6時間かかったよ」

B 「そんなに長く？帰宅した頃には疲れ切っていたでしょうね」

【誤】 (C)→must be 【正】 must have been

- ▶ 文脈から、Bの発言は過去のことに関する確信のある推量をはたらかせていると考えられるので、下線部(C)をmust be→must have beenとします。

- ▶ 下線部(B)のthatは「それほど、そんなに」という意味の副詞で後続のlongを修飾しています。下線部(D)のby the timeは接続詞的にはたらき、「～するときまでに(は)」という完了の期限を表します。

【語句】

□ **must have done** 「～した[だった]に違いない」

You look very tired. You **must have been working** too hard.

(お疲れのようですね。きっと働きすぎですよ)

□ **It take A B to do** 「A(人)が～するのにB(時間)がかかる」

**It took Susan weeks to regain** her strength after the illness.

(病気の後、スザンが体力を取り戻すには何週間もかかった)

□ **by the time** 「～するときまでに(は)」〔完了の期限〕

I will be back **by the time** you leave.

(君が帰るまでには戻ります)